



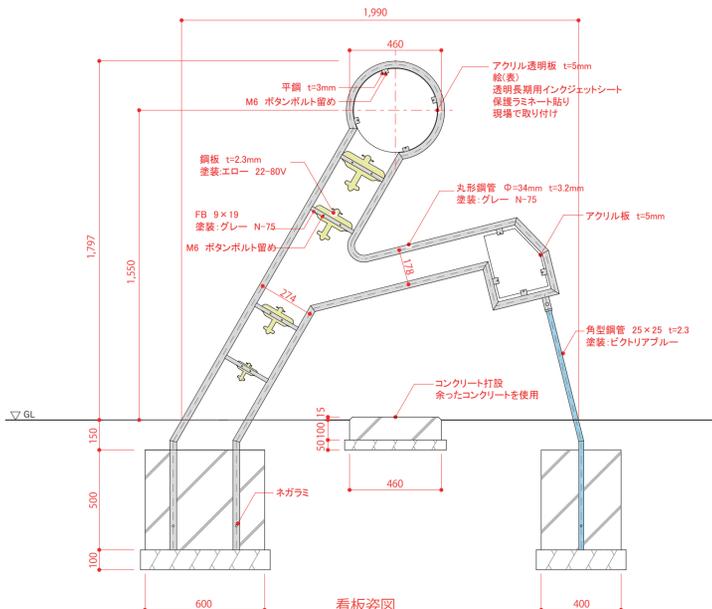
看板 (記念碑)



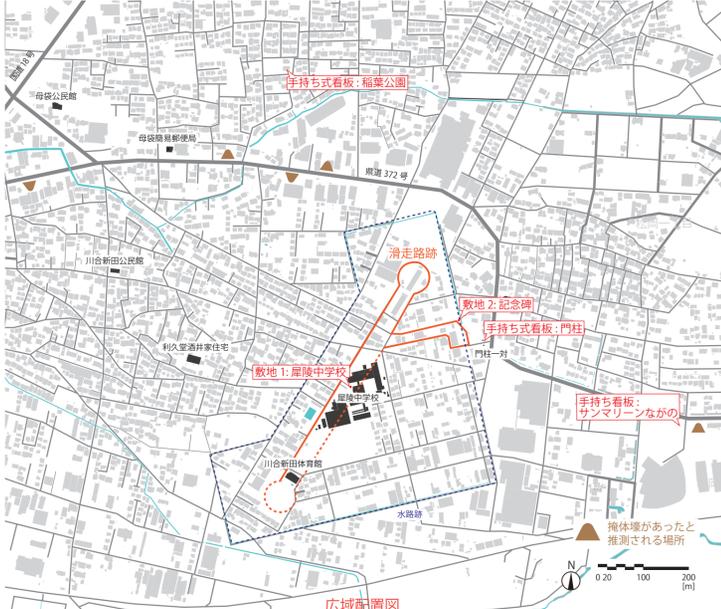
手持ち看板 (稲葉公園)



看板 (中学校) アクリル板の高さは自然に覗き込める 1550mm に設計



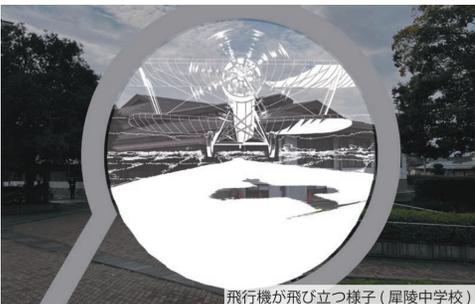
看板姿図



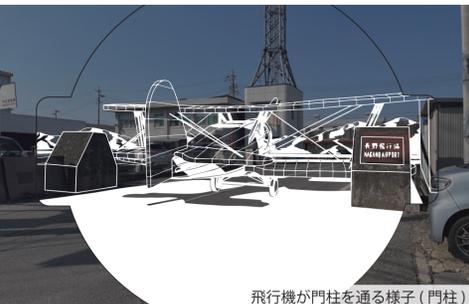
広域配置図



飛行機が旋回する様子 (記念碑)



飛行機が飛び立つ様子 (犀陵中学校)



飛行機が門柱を通る様子 (門柱)

## プロジェクト概要

長野飛行場は、1938年に長野市川合新区に建設され、1981年まで存在していた飛行場である。戦時は小型機の練習場として、戦後は民間飛行場として使用された。終戦後、滑走路跡には市営住宅、中学校などが建てられ、滑走路東側の格納庫があった場所には、1992年に飛行場跡地を示す記念碑が建てられた。飛行場の姿は消えつつある一方で、川合新区には、飛行機が旋回するためのターニングパッド跡や小型飛行機の本製プロペラなどが保存されており、貴重な地域資源として、中学校の地域学習に生かされている。また、戦時には、米軍の空襲による被害を防ぐため、地上に分散配置された飛行機を隠す目的で掩体壕(えんたいごう)がつくられ、長野飛行場の周辺にも約50個存在していたと言われていたが、そのほとんどは、空襲によって爆破され、現在は残っていない。

令和6年度より、寺内研究室では、芹田商工振興会に協力して、長野飛行場を後世に伝えるための保存伝承活動を行っている。3年に及ぶ計画であり、「ながのまちづくり活動支援事業」に採択された今年度は、川合新区の2箇所に滑走路の外形をモチーフとした、覗くことで当時の飛行場の姿を視覚的に体験できる固定式の看板と、持ち運び可能な手持ち式看板を制作した。また、地域住民への歴史の伝承を目的として、看板の除幕式と、ウォーキングイベント、当時行われていた模型飛行機大会を再現した紙飛行機大会を実施した。



1961年の長野飛行場周辺の航空写真



小型機で使用されていた木製プロペラ

## プロジェクト始動



芹田商工振興会の浅野相談役からプロジェクトの概要説明を受けたのち、石碑や門柱跡、木製プロペラやターニングパッド跡を見学した。

## 長野飛行場の資料収集

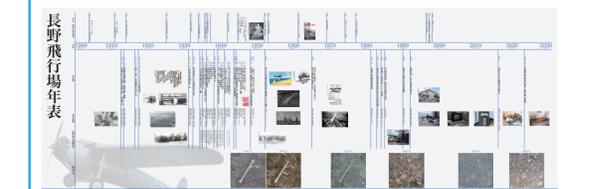


項目	内容
1	長野飛行場の歴史
2	滑走路の形状
3	ターニングパッド
4	格納庫
5	掩体壕
6	石碑
7	門柱
8	木製プロペラ
9	ターニングパッド跡
10	格納庫跡
11	滑走路跡
12	ターニングパッド跡
13	格納庫跡
14	滑走路跡
15	ターニングパッド跡
16	格納庫跡
17	滑走路跡
18	ターニングパッド跡
19	格納庫跡
20	滑走路跡
21	ターニングパッド跡
22	格納庫跡
23	滑走路跡
24	ターニングパッド跡
25	格納庫跡
26	滑走路跡
27	ターニングパッド跡
28	格納庫跡
29	滑走路跡
30	ターニングパッド跡
31	格納庫跡
32	滑走路跡
33	ターニングパッド跡
34	格納庫跡
35	滑走路跡
36	ターニングパッド跡
37	格納庫跡
38	滑走路跡
39	ターニングパッド跡
40	格納庫跡
41	滑走路跡
42	ターニングパッド跡
43	格納庫跡
44	滑走路跡
45	ターニングパッド跡
46	格納庫跡
47	滑走路跡
48	ターニングパッド跡
49	格納庫跡
50	滑走路跡

長野市公文書館や芹田支所で、長野飛行場に関する資料を収集し、資料リストを作成した。

## 企画・構想

## 犀陵中学校での地域学習を利用したWS①



1回目のWSでは、街区模型や年表、掩体壕に関する資料などを用いて、長野飛行場の歴史を伝え、普段生活している場所が戦地であったことについて考えた。

## 犀陵中学校でのWS②



2回目のWSでは、歴史的遺構を保存・伝承するためのデザインについて共に考えた。掩体壕を原寸大で再現した舗装デザインや、遊具、壁面などの提案がある中、滑走路の形状をした覗くことで飛行場があった時の風景を再現できる看板(右下)が採用された。

## 設計

## 研究室での看板の検討



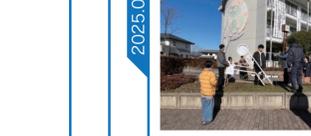
研究室内で看板の形状と、アクリル板に印刷する絵の検討を行う。

## 三栄日体との打合せ



看板を制作していただく長野市の道具メーカーである株式会社三栄日体と看板の形状について検討した。

## 原寸大模型での配置検討



看板を設置する2カ所に対して、モックアップを用いて、視角を確認しながら配置検討を行った。

## 制作

## イベントチラシ配布



ウォーキングイベントのチラシを制作し、芹田地区全戸に配布した。

## 手持ち式看板の制作



足の不自由な人など、看板を覗くことのできない人も体験できるように、手持ち式看板を3種類制作した。

## 採掘



看板を設置するための穴を掘る。木の根が絡み、一苦労。

## 砕石敷き・スパイラル管設置



掘った穴に砕石を敷く。水平をとるのが意外と難しい。

## コンクリート打設



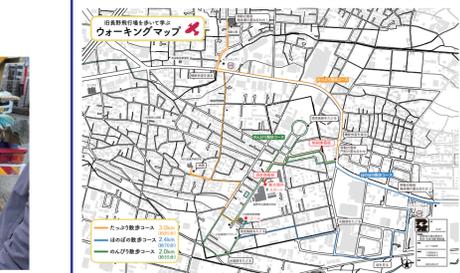
株式会社三栄日体の立会いのもと、看板を固定し、コンクリートを打設した。

## アクリル板設置



アクリル板の加工・印刷は株式会社ショーデンに依頼し、アクリル板の見え方などを調整しながら設置した。

## 除幕式・ウォーキングイベント



地域住民を招き、設置した看板の除幕と飛行場遺構を巡るウォーキングイベントを行った。また、イベントに併せて、ウォーキングマップを作成したほか、これまでの活動などの展示や当時行われていた模型飛行機大会を再現した紙飛行機大会を行った。

## 制作